

【 神現祭前期のトロパリ 第4調 】

ゼブルンよ おのれをそなえよ、ナフタリよ  
 己 備  
 よろこびいわえ、イェルダンよ たのしみおど  
 喜 祝 樂 躍  
 りてせんをうけんためにきたるしゅをうけ  
 洗 受 爲 來 主 受  
 よ。アダムよ、げんぼとともによろこべ  
 原 母 借 慶  
 よ、かつてらくえんにてせしがごとくかくる  
 嘗 樂 園 如 隠  
 るなかれ、はだかなるなんぢをみしものは  
 勿 裸 體 爾 見 者  
 あらわれ、なんぢをはじめのころもに  
 現 爾 原 初 衣  
 ておおいたまわん。ハズハはおよそのぞうぶ物  
 蔽 給 凡 造 物  
 つをあらたにせんたためにあらわれたま  
 新 爲 現 給  
 えり。

【 サロフの聖セラフィム祭のトロパリ 第4調 】

ふくたるものよ、なんぢはいとけなき  
 福 者 爾 幼

ときよりハリストをあいし、かれひとり  
 時 愛 彼 獨  
 ねっしんにつとめんことをのぞみ、こうや  
 熱心 勤 望 荒 野  
 にありてたえざるきとうときんろうとをもってきん  
 在 絶 祈 禱 勤 勞 以 勤  
 ぎょうし、しょうかのこころをもってハリストの  
 行 傷 感 心 以  
 あいをえ、かみのははにあいせらるるも  
 愛 獲 神 母 愛 者  
 のとしてえらばれたり。ゆえにわれらなん  
 選 故 我 等 爾  
 ぢによぶ、こくしょうなるわがしんぷ  
 呼 克 肖 我 神 父  
 セラフィムよ、なんぢのきとうをもってわれらを  
 爾 祈 禱 以 我 等  
 すくいたまえ。  
 救 給

【 サロフの聖セラフィムのコンダク 第2調 】

こうえいはちちとこ と せいしんにき  
 光 榮 父 子 聖 神 歸  
 す、

こくしょうしゃ よ、なんぢはよのかびとそのう  
 克 肖 者 爾 世 華 美 其 中

ちのくつべきものをすて て、サロフ  
 朽 遺

のしゅうどういんにのがれ、かしこにおいて  
 修 道 院 遁 彼 處 於

てんしのごとくすまい て、おおくのもの  
 天 使 如 住 衆 者

のため に、すくいにゆくみちとなれ  
 爲 救 往 道

り。ここをもってちちセラフィムよ、  
 父

ハススもなんぢをえいして、いやしときせき  
 爾 榮 医 治 奇 蹟

とのおんしにとませたまえり。いんとん  
 恩 賜 富 給 隠 遁

しゃ、こくしょうしゃ よ、われらのすくわれんこ  
 者 克 肖 者 我 等 救

とをいのりたまえ。  
 祈 給

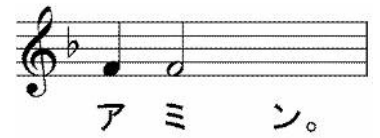
【 神現祭前期のコンダク 第4調 】

いまもいつ もよよに、アミン。  
 今 何 時 世 世

こんにちしゆはイオダンのながれのうちにあり  
 今日主 流 中 在  
 てイオアンによびてい、われにせんをさづ  
 呼 言 我 洗 授  
 くことをおそるるなかあれ、けだしわ  
 畏 勿 蓋 我  
 れはじめにつくられしアダムをすくわんため  
 原初 造 救 爲  
 にきたれり。

司祭) ( 黙誦：聖なる神、<sup>せい かみ せいじゃ うち いこ</sup>聖者の中に息い、<sup>せいさん こえ もつ かしょう</sup>セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、  
<sup>さんえい</sup>ヘルヴィムより讚榮せられ、<sup>ことごと てんぐん ふくはい</sup>悉くの天軍より伏拝せられ、<sup>ばんぶつ む ゆう</sup>萬物を無より有と  
<sup>ひと なんぢ ぞう しょう</sup>なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、<sup>よ つく なんぢ もろもろ たまもの もつ これ かざ</sup>爾が諸の賜を以て之を飾り、  
<sup>ねが もの ちえ めいご あた つみ おこな もの す</sup>願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行<sup>そ</sup>う者を棄てずして、<sup>そのすくい たため つうかい</sup>其救の爲に痛悔  
<sup>た われらいや ふとう なんぢ しょぼく こ ととき おい なんぢ せい</sup>を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な  
<sup>さいだん こうえい まえ た なんぢ とうぜん ふくはいさんえい たてまつ た もの</sup>る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と  
<sup>しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ</sup>なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を  
<sup>もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ</sup>以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と  
<sup>せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい</sup>を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる  
<sup>しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ</sup>生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) 蓋我が神よ、<sup>けだしわ かみ なんぢ せい</sup>爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に<sup>われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ</sup>献ず、今も何時も世世  
 に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る  
聖 神 聖 勇 毅 聖

じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め  
常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い  
聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ  
常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、  
聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ  
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん  
光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。  
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ  
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う  
聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのもよ、われら等を  
 毅 聖 常 生 者 我 等 を

あわれめよ。  
 憐

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國  
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、 )

【 プロキメン 提綱 諸克肖者の第7調 】

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、聖人の死は主の目の前に貴し、

せいじんのしはしゅのめのまえにたつと  
 聖 人 死 主 目 前 貴

し。

誦經) 我何を以て主の我に施しし悉くの恩に報いん、

せいじんのしはしゅのめのまえにたつと  
 聖 人 死 主 目 前 貴

し。

誦經) 聖人の死は、

しゅのめのまえにたつと  
 主 目 前 貴

し。

【 アポστόロス 使徒經 213 端 ガラティヤ書 5 章 22～6 章 2 節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴェルがガラティヤ人に達する書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、神の果は仁愛、喜悅、平安、恒忍、仁慈、矜恤、信仰、溫柔、節

制なり。此くの如き者には律法なし。凡そハリストスに屬する者は、肉體を其情及び

慾と共に十字架に釘せり。若し我等神に依りて生きば、亦神に依りて行うべし。虚榮

を尚び、相怒り、相妒む勿るべし。兄弟よ、若し人過に陥らば、爾等屬神の

者は、溫柔の神を以て、之を規し、且自省みるべし、恐らくは爾等も亦誘わ

れん。爾等互に荷を負え、是くの如くしてハリストスの法を盡さん。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚榮に生きてはならない。兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 諸克肖者の第6調 】

司祭) 爾に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) 神を畏れ、其誠を極めて愛する人は福なり、

ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、  
ア リ ル イ ヤ 。

誦經) <sup>そのすえ ち ちから</sup> 其 裔は地に力あり、

ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、  
ア リ ル イ ヤ 。（

【 エヴァンゲリオン 福音經 ルカ福音書 24 端 6 章 17～23 節 】

司祭) <sup>えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん</sup> 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、

なんぢのしんにも。  
爾 神

司祭) <sup>でん せいふくいんけい よみ</sup> ルカ傳の聖福音經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮  
はなんぢにきす。  
爾 歸

司祭) <sup>つつし き か と き へいち た ここ そのおお もんと およ おお たみ</sup> 謹みて聴くべし、彼の時イイスス平地に立てり、爰に其衆くの門徒、及び衆くの民、

<sup>しほう ならび うみべ かれ き ため かつおのれ</sup> イウデヤの四方イエルサリム 井にティルとシドンとの海濱よりして、彼に聴かん爲、且己

<sup>やまい いや ため きた もの またおき うれ もの かれらいや しゅうみんかれ</sup> の病の醫されん爲に來りし者、又汚鬼を患うる者ありき、彼等醫されたり。衆民彼

<sup>さわ ほつ けだしちからかれ い しゅう いや かれ め あ そのもんと み</sup> に捫らんと欲せり、蓋能彼より出でて、衆を醫せり。彼は目を擧げて、其門徒を視て

<sup>い しん まづ もの さいわい かみ くに なんぢら もの いまう もの さいわい</sup> 曰えり、神の貧しき者は福なり、神の國は爾等の有なればなり。今飢うる者は福



<sup>なんぢらあ</sup> <sup>え</sup> <sup>い</sup> <sup>ま</sup> <sup>な</sup> <sup>もの</sup> <sup>さいわい</sup> <sup>なんぢらわら</sup> <sup>え</sup>  
 なり、爾等飽くを得んとすればなり。今泣く者は福なり、爾等笑うを得んとすればな  
<sup>ひと</sup> <sup>こ</sup> <sup>ため</sup> <sup>ひと</sup> <sup>びと</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>にく</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>た</sup> <sup>かつ</sup> <sup>の</sup> <sup>し</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>な</sup> <sup>あ</sup> <sup>もの</sup>  
 り。人の子の爲に人人爾等を憎み、爾等を絶ち、且語り、爾等の名を悪しき者と  
<sup>す</sup> <sup>とき</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>さいわい</sup> <sup>その</sup> <sup>ひ</sup> <sup>よる</sup> <sup>こ</sup> <sup>た</sup> <sup>の</sup> <sup>し</sup> <sup>てん</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>むく</sup> <sup>い</sup> <sup>お</sup> <sup>お</sup>  
 して棄つる時は、爾等福なり、其日に喜び樂めよ、天には爾等の賞多ければ  
 なり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) その時イエスは平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、  
 ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、  
 そこにきていた。そして汚れた霊に悩まされている者たちも、いやされた。また群衆はイエスにさわろ  
 うと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。そのとき、イ  
 エスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の国はあな  
 たがたのものである。あなたがたいま飢えている人たちは、さいわいだ。飽き足りようになるからで  
 ある。あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである。人々があなたが  
 たを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがた  
 はさいわいだ。その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。  
 \*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいは  
 主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮  
 はなんぢにきす。  
 爾 歸

※聖体礼儀③ (金ロイオアン聖体礼儀) へ